

講義記録システムの利用状況

下川 俊彦

Toshihiko SHIMOKAWA

九州産業大学 情報科学部 社会情報システム学科

Department of Social Information Systems, Faculty of Information Science, Kyushu Sangyo University
toshi@is.kyusan-u.ac.jp, <http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~toshi/>

牛島 和夫

Kazuo USHIJIMA

(同上)

ushijima@is.kyusan-u.ac.jp, <http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~ushijima/>

1. はじめに

情報科学部では、平成14年4月の開設以来、講義記録システム [1] を運用し、専任教員により情報科学部棟で行われる全ての講義を録画・録音し Web 配信している [2, 3, 4]。本稿では、本システムの6年間の運用実績について述べる。

2. アンケートによる評価

情報科学部では、毎年前期終了時点で学習環境に関するアンケートを実施している。学生諸君が講義記録システムをどのように位置づけているかを知るために、2008年7月のアンケート結果から関係部分を表1に示す。

表1 講義記録システム活用状況

学年	回答数	知っている	利用した	復習	予習	他クラス参観	課題確認	自由記述
1	95	93	49	33	3	3	34	7
2	92	89	57	48	9	7	26	21
3	96	96	80	72	20	14	45	42
4	80	80	66	60	11	12	38	25
合計	363	358	252	213	43	36	143	95

学年によって傾向が若干異なるが、69%の学生がこのシステムを利用したと答えている。3年生以上では、利用したことがある学生が80%を超えている。また利用経験者の85%が復習に利用している。レポート課題の確認のために57%の学生が利用したと答えており、講義受講後の利用者が多いことが分かる。その一方で、予習に利用したと答えている学生が17%いることは注目に値する。他クラス参観とは、同一科目が複数並列開講している場合に、自分が受講していないクラスの講義を視聴することである。14%の学生がこの目的で利用していることが分

かった。

アンケート調査には自由記述がある。回答者の25%が何らかの記載をしてくれている。表2にそれを概略分類して示す。合計数が表1と異なる理由は、複数の内容が記述されたい場合それぞれの項目で件数としてカウントしたためである。

表2 自由記述の分類

分類	件数
画質や音質を改善して欲しい。	46
便利。復習に役立つ。	31
学外から利用したい。	10
特になし。	9
その他	8
合計	104

自由記述記入者のうち30%が、「復習できてとても便利です。(1年生)」「とても役に立ちます(2年生)」「聞きのがしたところを再度見直して勉強できるのでとてもよく使っています。(4年生)」などと肯定的な評価をしている。一方、44%が「解像度を上げてほしい。(1年生)」「黒板、ホワイトボード、スライドの文字が見にくいときがある。(2年生)」「画質、音質共に不鮮明。向上を求む。(3年生)」「もっと画面が見やすくなると良いと思う。(4年生)」などのように、記録動画の画質や音質に対する問題を指摘している。また、10%が「自宅でも利用できたら嬉しい。(3年生)」「家に帰ってもネットが繋がる環境下なら見れるようにしてほしい。(4年生)」などのように学外からの利用に対する要望を述べている。

3. 講義記録システムへのアクセス

講義記録システムへの月毎のアクセス数の推移を図1に示す。2002年度の記録が無いのは、システム更新の際に誤って消去してしまったからである。

7月と1月のアクセス数が多いことが分かる。定期試験は7月と1月に実施される。すなわち、学生諸君が試験対策として利用していることが読み取れる。また、8月、2月、3月の長期休暇期間のアクセス数の落ち込みからも、普段、学生諸君に利用されていることが分かる。

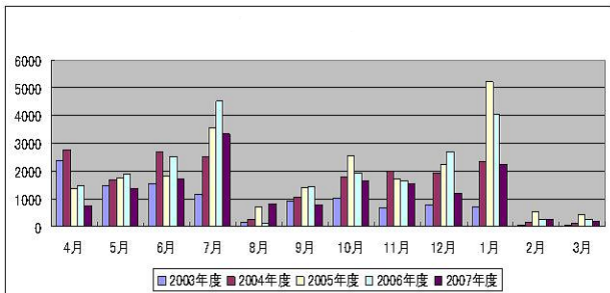


図1 月毎のアクセス数

4. 卒業研究での活用

情報科学部では、平成17年度に1期生が4年生となり卒業研究に取り組んだ。これまでに平成17年度から平成19年度までの3度卒業研究が実施されていることになる。

講義記録システムは、単に学習支援として機能するだけでなく、そのシステム自体が研究の題材としても利用されてきた。それらの卒論題目一覧を表3に示す。

これに加えて、平成19年度には大学院情報科学研究科においても、修士研究のうち1件[5]が講義記録システムを題材として用いている。

表3 講義記録システムを題材とした卒業論文一覧

年度	卒論題目
平成17	講義記録システムのアクセス解析
平成18	講義記録システムの授業別・アンケート結果別・視聴時期別アクセス解析
	学生数の定常化に注目した講義記録システムアクセス解析
	Ajaxによる「情報科学部授業体験 on the Web」の操作性の改良
	講義記録システムにおけるチャプターマークシステム
平成19	講義記録映像に対する索引の作成 - インターネット工学と情報技術者倫理 -
	SMILを用いた索引の作成 ~情報リテラシーと離散数学 III-A グラフ理論~
	離散数学の代数系部分に対する語句レベルマップの作成
	難易度を基準とした語句レベルマップの作成 離散数学 数理論理編
	動画を見ながらコメントが書ける授業支援システム

5. 講義記録システムの問題点

講義システムの運用・改善や、アクセス状況の追跡調査などを行ってきた中で明らかになった問題点としては以下のようなものがある。

- 学生による視聴動向の把握が十分に出来ていない。
- 学生からのこの講義ビデオに対するフィードバックが不十分である。
- システムの改良が容易ではない。

これらについては、今後の講義記録システム改修の中で解決を図っていききたいと考えている。

6. おわりに

情報科学部では、設立以来講義記録システムを運用し、教育・研究活動に活用してきた。学生に対するアンケートや、アクセス状況の解析から、本システムが学生の中に十分に根付いており、学習環境として非常に重要な位置を占めていることが分かった。

今後は、これまでの運用経験などから得られた問題点の解決などを含め、講義記録システムのさらなる充実を図っていききたい。

◇ 参考文献 ◇

- [1] 九州産業大学情報科学部情報システム運用室, “九州産業大学情報科学部の講義記録システム,” 九州産業大学情報科学会誌 Vol. 1 No. 1, pp 14-17, February, 2003
- [2] 下川俊彦, 合志和晃, 牛島和夫, “講義記録システムの構築と運用、今後の課題,” 電子情報通信学会 技術研究報告 (教育工学研究会) ET2005-62, 105:488, 31-36, December, 2005
- [3] 下川俊彦, 合志和晃, 牛島和夫, “講義記録システム4年間の運用と評価,” 日本工学教育協会 工学・工業教育研究講演会 講演論文集, pp. 236 - 237, July, 2006
- [4] 牛島和夫, 下川俊彦, “学習教育環境としての講義記録システムの実際,” 大学と学生, 第45号, 56-63, September, 2007
- [5] 井上宗徳, 下川俊彦, “講義スライドのフッターを用いたラベル付けによる講義映像のインデックス作成に関する研究,” 電子情報通信学会 技術研究報告 (教育工学研究会) ET2007-55, 107:391, 1-6, December, 2007